

令和5年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立伊福小学校

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

ア 学び合う児童 【知】

イ 助け合う児童 【徳】

ウ たくましい児童 【体】

(2) 本年度の重点努力目標

ア 確かな学力

- ・主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善
- ・タブレット端末の効果的な活用
- ・振り返り活動の確保
- ・読書タイムの継続

イ 豊かな心の育成

- ・笑顔で元気のよいあいさつや返事の励行
- ・しゅっぱータイムの充実
- ・人権教育の工夫
- ・心を合わせた合唱の充実

ウ コミュニティスクールの充実

- ・地域人材の積極的な活用
- ・幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校との連携
- ・ホームページ等を活用した取組内容の周知

エ 安全教育の充実

- ・校内環境の整備と危機管理の徹底
- ・自分の命を大切にする取組
- ・見守り隊の充実

オ 働き方改革とコンプライアンス遵守

- ・風通しのよい温かい職場環境づくり
- ・業務内容の改善や職務の優先順位の見直し
- ・生きがいや働きがいを大切にしたタイムマネジメント力向上
- ・コンプライアンス面談や研修の推進

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和5年12月19日～12月26日

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数505／対象者数596

・児童生徒 300名／全318名 ・学校運営協議会委員 6名／全13名

・保護者 180名／全244名 ・教職員19名／全21名 計505名

3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童・生徒、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

(1) 児童の評価

- ・ 全体的には、ほとんどの項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%以上で、肯定的な回答を得ることができた。

- ・ 「宿泊行事（修学旅行、林間学校）や校外での活動に喜んで参加している」「学級で楽しく生活し、仲のよい友達がいる」「（先生たちが）教育に情熱をもって取り組む」「ＩＣＴ（タブレット端末活用）は自分のためになっている」の「よくあてはまる」という肯定的な意見が多く、宿泊行事、校外での活動や普通の授業、ＩＣＴを使った学習に満足していると考えられる。
- ・ 「交通マナーを守る」は、児童の９２％が肯定的な回答であるが、「よくあてはまる」に着目すると、職員は１５．８％、保護者は４２．８％で、改善の余地がある。

(2) 職員の評価

- ・ 全体的には、肯定的な回答が多かった。
- ・ 「宿泊行事（修学旅行、林間学校）や校外での学習に喜んで参加している」「児童は歌うことが好きで楽しく合唱している」の項目が特に高い。コロナ禍を越えて実施した成果があったと考えられる。
- ・ 児童の評価と差が見られた項目は、「交通マナーを守っている」の項目である。「よく守っている」と回答した児童は約７０％である。しかし、「よく守っている」と回答した教職員は１５．８％である。昨年度より改善しているが、継続して交通安全指導をする必要があると考えられる。また、「挨拶、返事ができる」の項目でも、児童と職員の差が見られるが、児童会の企画の成果があり、改善しつつある。今後は、児童が校内だけでなく、家庭や地域でも今まで以上に挨拶ができるよう啓発していく必要性があると考えられる。

(3) 保護者の評価

- ・ 全体的には、肯定的な回答が多かった。
- ・ 「宿泊行事（修学旅行、林間学校）や校外での学習に喜んで参加している」「学級で楽しく過ごし、仲のよい友達がいる」の項目で、肯定的な回答が最も多かった。宿泊行事（修学旅行、林間学校）や校外での学習、学級での生活に児童が満足していると感じている。
- ・ 「ＩＣＴを使った学習」「児童が読書に親しむ」については、肯定的ではあるものの、改善の余地がある。児童と職員の評価は高いので、学校の様子を保護者に伝えていく必要があると考えられる。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 児童、職員、保護者の三者とも評価が高かったのは、「校外での学習（社会見学、林間学校、修学旅行等）」「児童が学級で楽しく過ごさせている」の項目であった。
- (2) 「学校は情熱をもって教育に取り組んでいる」「ＩＣＴは学習に役に立つ」の項目で、児童と職員の評価が高かった。
- (3) 児童は、校内の安全が保たれていると感じている。
- (4) 学校行事、普通の授業、学校生活において職員が児童の成長を感じている。また、しゅっぱータイムは、児童、職員ともにコミュニケーション力向上に役立っていると感じている。
- (5) 児童は、相談があるとき、職員が丁寧に対応していると感じている。

《課題》

- (1) 読書、ＩＣＴ教育に関しては、児童と職員の自己評価に対して、保護者の評価が低く、差が見られた。
- (2) 交通マナーに関しては、児童の自己評価に対して、保護者と職員の評価が低く、差が見られた。
- (3) 授業がとても楽しいと回答する児童は、５５．３％で昨年度より５ポイント改善したが、今後も改善の余地がある。

6 改善策

- (1) 朝読書に児童が火、水、木曜日に取り組む様子、月１回の読み聞かせボランティア（１・２年対象などの）実績や、ＩＣＴ教育の実際の様子をＨＰ等で保護者に周知する。
- (2) 通学団会議や職員による付添一斉下校をはじめとして、交通安全について啓発する。
- (3) 主体的・対話的で深い学びの授業力を磨き、実践するとともに、授業がとても楽しいと感じる児童が増えるように工夫する。
- (4) 学校内での取組で成果を上げているＩＣＴ、職員と児童とのコミュニケーションなどについて、保護者にも伝わるように、ＨＰを活用して周知していく。